

第1回 北九州港カーボンニュートラルポート（CNP）協議会 議事概要

日時： 令和4年8月9日（火）14：00～15：40

場所： AIMビル3F 314-315会議室

開催形式： 対面及びWebの併用

【議事概要】

（議事2-1：北九州港CNP協議会の進め方（案）について）

事務局より、協議会設置要綱（案）や、今年度の北九州港CNP協議会の進め方及びスケジュール等について説明を行った。

（議事2-2：北九州港CNP形成計画（素案）について）

事務局より、「CNP形成計画策定マニュアル（初版）」に基づき、昨年度実施した「北九州港CNP検討会」での討議を踏まえて策定した、「北九州港CNP形成計画（素案）」について説明を行った。

<構成員>

- ・ CNP形成計画の立案を進めていくに当たり、メンバー企業各社の経営資源の提供だけでなく、企業間連携を組み込み、価値を創造していくことも視野に含めて検討すべきではないかという点について、ご意見を伺いたい。

<事務局>

- ・ CNP形成計画（素案）の中では企業間の連携について、記載できていないところがある。今年度、協議会やWGを通じて、行政と企業、企業間の中での意見交換、情報共有等を活発に行っており、CNP形成計画の中には、企業間連携についてもぜひ記載したい。

（議事2-3：北九州市グリーン成長戦略について）

事務局より、北九州市におけるグリーン成長戦略の基本戦略やロードマップ等について説明を行った。

<構成員>

- ・ 「北九州市グリーン成長戦略」において、2030年度見込みの水素需要が年間5,700トと示されているのに対し、「北九州港CNP形成計画（素案）」での2030年度の水素需要は約30万トと大きく異なる。前者の数値が現実的なものなのか。

<事務局>

- ・ グリーン成長戦略の水素需要5,700トの推計については、市内企業へのヒアリングで把握した実需要と、市内水素を活用した供給量の検討から見込んだ数値である。
- ・ 水素については、供給量のポテンシャルだけでなく需要と一体的に開発することが必要であり、需要ポテンシャル量が増えれば供給体制も増やしていくことが

考えられるため、企業の意向を考慮しながら推計を行っている。

- ・ CNP 形成計画(素案)における実需量は 0.5 万トであり、グリーン成長戦略における水素需要 5,700 トと整合を図っている。
- ・ CNP 形成計画(素案)の水素需要 32 万トについては、CO2 削減目標の達成に必要な量であり、ポテンシャル量として示している。

(議事 2-4 : 国における CNP 形成の取組について)

国土交通省九州地方整備局より、港湾オペレーションの脱炭素化に資する主な支援制度や「みなと SDGs パートナー登録制度」等について、ご紹介いただいた。

(議事 2-5 : 民間における脱炭素化の取組について)

構成員として参画いただいた民間企業より、脱炭素化の取組の事例について、ご紹介いただいた。

(議事 2-6 : 北九州港 CNP 形成計画策定に向けた検討の方向性について)

事務局より、北九州港 CNP 形成計画策定に向けた検討の方向性について、公共ターミナル内、公共ターミナルを出入りする船舶・車両、公共ターミナル外等の区分ごとに、それぞれ説明した。

以上